

「真鍋先生と学ぶ恐竜と進化のれきし」



国立科学博物館副館長の真鍋真先生をお招きし、「真鍋先生と学ぶ恐竜と進化のれきし」というテーマでご講演いただきました。

まず、真鍋先生は、ご自身のお仕事紹介として、「研究する」「集める」「見せる」の3つがあり、先生が研究したり、集めたりしたことは、博物館などで来館される皆さんにお見せしています、とお

話しされました。

次に、真鍋先生が監修された「せいめいのれきし 改訂版」(岩波書店)をスクリーンに映して、生き物がどんな風に進化してきたかについて、ページをめくりながらお話いただきました。

実際に先生が恐竜の骨の発掘調査に行かれたお話や、その際に恐竜の骨を見分ける方法についてもお話いただきました。

骨だけを見て恐竜と見分けるには、後ろあしを見ることだそうです。恐竜の場合は、骨盤に穴があいていて、あしをまっすぐにのばすことができ、長い距離

を速く移動することができるのだそうです。穴があいていないと、あしが広がって、ワニのようにがに股歩きになります。

最近の発掘調査としては、中国で長さ30センチほどの肉食恐竜の足跡化石が見つかりました。新種の化石として「ノビタイ」(見つけた研究者がドラえもんのファンだそうです)という名前がつけら



れました。中国と日本は、昔は陸続きだったので、日本でも同じような化石が見つかるかもしれません、と真鍋先生はお話しされていました。

幅広い年代の方が楽しめるように、時折クイズを交えながら、一番大きい恐竜や小さい恐竜の種類やサイズについての説明もしていただきました。

また、現在名前がついている恐竜は1300種くらいだそうです、もっといたはずともお話しされていました。

そして、わかっていないことや発見されていないことが、まだまだたくさんあるの

で、たくさんの方が恐竜研究者を目指してくれるといいな、ともおっしゃっていました。

講義後の質問タイムには、お子さんを中心に、たくさんの質問がでました。真鍋先生は、その一つ一つに詳しくお答えくださり、皆さんの興味の幅も広がっていったのではないのでしょうか。

講演会終了後は、先生にもっと質問したいお子さんや、ご著書にサインをお願いするお子さんの長い列ができ、先生は、時間の許す限りお応えくださいました。

講演会の日(10月15日)は、偶然にも「化石の日」で、化石や古生物への興味・関心を高めるために制定された日とのこと。 「化石の日」に、恐竜博士の真鍋先生とともに、恐竜について学ぶことができ、大変楽しい時間を過ごすことができました。

